

令和7年9月11日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長

理由説明書

苦情申出人は、最高裁判所がした開示の判断に対し、令和7年7月9日付け（同月10日受付）司法行政文書の開示に関する苦情の申出書記載のとおり主張しているが、下記のとおり当該判断は相当であると考えている。

記

1 開示申出の内容

令和6年12月1日現在の女性裁判官の人数を調査した際に作成し、又は取得した文書（内閣府男女共同参画局に提出した文書のうち、「令和7年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」として公表される文書は除く。）

2 原判断機関としての最高裁判所の判断内容

最高裁判所は、1の開示申出に対し、令和7年6月9日付けで開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

3 最高裁判所の考え方及びその理由

(1) 最高裁判所において本件開示申出に係る文書（以下「本件開示申出文書」という。）を探索したところ、原判断により開示した司法行政文書（以下「本件開示対象文書」という。）以外には存在しなかった。

(2) これに対し、苦情申出人は、本件開示対象文書以外にも本件開示申出文書に該当する司法行政文書が存在すると思われる旨を主張する。

しかしながら、最高裁判所においては、本件開示申出文書について、本件開示対象文書以外の司法行政文書を作成又は取得する定めはなく、事務処理上作

成又は取得する必要もない。念のため、本件開示申出を受けて本件開示対象文書以外の司法行政文書についても探索したが、存在しなかった。

(3) よって、原判断は相当である。